

# 全学学類・専門学群・総合学域群代表者会議

## 第八回本会議

令和 8 年 01 月 07 日（水）

（議事次第）

### 議題

- ・令和 8 年度 4 月 1 日実施の寄宿料等値上げに関する対応における要望への承認の要請

### タイムテーブル

当日の時刻	日程
18:30	開会
18:31~19:42	質疑応答
19:42~19:48	投票
19:48~19:59	その他連絡
19:59	散会

### 出席者

学類等代表者 50 名 詳細省略

**資料一覧**

- ・令和 8 年度 4 月 1 日実施の寄宿料等値上げに関する対応における要望への承認の要請  
…… P25011-00
- ・令和 8 年度 4 月 1 日実施の寄宿料値上げに関する要請  
…… P25011-01
- ・「令和 8 年度 4 月 1 日実施の寄宿料値上げに関する要請」における理由書  
…… P25011-02
- ・令和 8 年度 4 月 1 日実施の寄宿料値上げに関するアンケート調査報告書  
…… P25011-03
- ・教育生活環境調査に対する学生生活課からの回答要旨  
…… P25011-04
- ・教育生活環境調査\_宿舍値上げについて\_158\_学生部回答(20251223)  
…… P25011-05
- ・CampusNo170\_宿舍、再考。  
…… P25011-06
- ・寄宿料の改定（値上げ）について（お知らせ）  
…… P25011-07
- ・筑波大学の学生組織等について  
…… P25011-08

## 以下、議事録

### 開会

#### ○吉川 柊（議長）

第八回本会議を開会する。議案提出者の生活環境委員会委員長より説明をお願いする。

### 議題説明

#### ○中村 文哉（生活環境委員会委員長）

生活環境委員会委員長の中村である。それでは本議案の説明をする。

本議案は、令和 8 年 4 月 1 日実施の寄宿料値上げに関する要望の承認を求めるものである。議案提出の経緯として、令和 7 年 12 月 10 日に大学より令和 8 年 4 月 1 日に寄宿料を値上げする旨の通達が行われた。生活環境委員会としては、値上げが急であること及び値上げ幅が大きいことを受け、学生の意見を教育生活環境調査およびアンケートを通じて収集した。その結果を受け、本要望を提出する。

審議対象は資料 P25011\_01、P25011\_02、P25011\_03 のみである。資料 P25011\_04 以降の参考資料に関しては審議対象ではない。また、機密性の高い情報も含まれているため、参考資料については学類等代表のみに配布する。

資料 01 は大学に対する要望書である。値上げについて学生との合意を形成すること、値上げ時期を 1 年間延長すること、経済的不安を抱える学生に対して支援策を示すことの 3 つを要望している。

資料 02 は資料 01 の要望を行うための理由書である。

資料 03 は理由書の根拠として使用したアンケート調査の具体的内容である。

資料 04 以降は、理由書に示した事実を補足するための資料である。

説明は以上となる。

### 質疑応答

#### ○吉川 柊（議長）

質疑応答に移る。

#### ○カーニー 晴希（教育学類）

宿舎について、現在入居している人の中で留学生が非常に増えている。参考資料にはないが、2018 年の第 342 号筑波大学新聞には、日本人入居者が減っているにもかかわらず留学生の入居者は増えているという傾向が示されている。

学生との合意形成に関して、全大会の構成員の多くは留学生ではないということもあるので、留学生など実際に住んでいるにも関わらず声を届けにくい立場の学生の意見をどのよ

うに反映していくべきかお伺いしたい。学長がグローバルトラストの創出を掲げている中で、学生との信頼関係が損なわれるようなことがないように、十分議論していただきたい。

○中村 文哉（生活環境委員会委員長）

全代会としては、まず教育生活環境調査において、今回は留学生からもたくさんのご意見をいただいております、それも反映したものとなっている。また、大学との話し合いにおいて説明会等があると思うが、そちらも国際特別委員会と協力しながら英語での周知を行っており、一定の成果を見せている状況である。

○高橋 実来（知識情報・図書館学類）

1点確認と質問をしたい。資料01について、項目2の値上げ時期についての言及だが、今回この値上げはどういった理由で行われるのか。改めて正式な内容を説明していただきたい。

○中村 文哉（生活環境委員会委員長）

大学から方針の説明がないため曖昧な回答になってしまうが、議長から学生生活課へ送付した質問への回答より、宿舍の管理業務委託費や共用部の光熱費の増加等が値上げの理由であると認識している。

○高橋 実来（知識情報・図書館学類）

私は1番と3番については概ね同意できる。しかし、この2番の値上げの延期について、宿舍の運営に必要な費用は他の部分で充填しないといけなくなる。知識情報・図書館学類の春日エリアの宿舍の居住者20人程度に意見を聞いたところ、今年度いっぱい退去するという声が多く上がっている。そんな中で寄宿料、共益費の値上げについての延期を求めてしまったら、今度はサービスの質の低下や教育水準の低下を招くのではないかという懸念があるが、そのようなリスクについてどのようにお考えか。

○中村 文哉（生活環境委員会委員長）

春日エリアでは1年間で退去される方が多いと思うが、宿舍全体では、来年度も居住するという学生もいる。その中で、そのような学生の来年度以降の生活が脅かされるという声もある。急激な値上げによって生活の見通しが立たなくなってしまう方もいることを考えると延期を要請する必要があるのではないかと考えた。

○高橋 実来（知識情報・図書館学類）

要求する値上げの持ち越し期間については1年間ということで4月にしているのか。

## ○中村 文哉（生活環境委員会委員長）

1 年間という期間は宿舎居住者たちの納得が得られない状況でその合意の形成や、引越す学生が転居先を検討する期間としてふさわしいと考えた。

値上げの理由に関して補足がある。大学側から宿舎で今年度 1 億円の赤字が出ていて、来年度で 4 億の赤字が出るという見込みが示された。また、大学の中期目標として来年度中に黒字にしなければいけないということ、その目標を達成するために値上げを行うということを、副学長から聞いた。

## ○柿沼 陽菜美（生物学類）

資料 01 の 1 番、学生の意見反映についてというところに質問がある。寄宿料の値上げに関して、学生と合意形成することを要請していると思うが、どのような合意形成方法を考えているか。

## ○中村 文哉（生活環境委員会委員長）

学生の合意形成方法としては、2007 年に寄宿料の値上げが行われたが、当時は値上げの 2 年前から学生との意見聴取会を通じてコミュニケーションを図っていた。今回も説明会や意見交換会を通じて合意が形成できればと考えている。

## ○青木 千鳳（心理学類）

先ほど、赤字が出るからというのが理由の 1 つとして挙げられていたと思うが、その理由は明確で、それを単に寄宿料の値上げをするということだけで改善できるという見込みがあるのかという疑問がある。アンケートの結果によると「来年度入居したくない」、「迷っている」という学生の意見が半数を超えている。また、来年度の新入生の中からも宿舎を利用する学生がいると思う。それも含め、赤字を挽回できる見込みはあるのか。このような観点を議論に含めるつもりはあるか。

## ○中村 文哉（生活環境委員会委員長）

まず赤字については、私も値上げの決定に関わった教職員ではないので正確にはわからない。しかし、大学側の見解としては、まず宿舎の入居率が低いということと、入居者が定着しないということが、赤字の理由として挙げられていた。それを含めて今後意見交換していくということになると思う。その中で、例えば今後、未来社会デザイン棟ができる中で宿舎として新たなブランドを作り上げることについては全代会として協力して宿舎の入居率を上げることができるのではないかと考えている。

## ○関 智亮（知識情報・図書館学類）

資料 04 の教育生活環境調査に対する学生生活課からの回答要旨では、周知時期が遅かったことについて、「学内の意思決定に時間を要したため改訂の約 4 ヶ月前の周知になった」という回答、そして値上げの決定プロセス批判に対する「過去の寄宿料改定と同様の方法を踏んでいます」という回答があったと思う。しかし、先ほど 2 年前から交渉がなされていたという説明があって、矛盾があるように思うが、全代会としては今後、意見の矛盾や学生生活課からの交渉をどのように見ていきたいと思っているか。また、昨日も大学側との会議があったということだが、学生生活課等の大学側は全代会が交渉していることについてどのような印象を受けていると思われるか教えていただければと思う。

○中村 文哉（生活環境委員会委員長）

まず、全代会が交渉していることについては、宿舍の値上げに対して交渉するという当然のこと当たり前のことをやっているというような認識を大学側は持っている聞いた。また、値上げの手順に関して矛盾があるということだが、参考資料の資料 06 と 07 からわかる通り、2007 年に行われた寄宿料値上げと今回の値上げの手続きでは全く違う手順で決定がなされており、これに関しては、まず学生との交流がなされていないという点で大学との交渉を行っていくつもりである。

○関 智亮（知識情報・図書館学類）

クラス代表者会議としてもできる限りアンケートの周知などで協力できればと思うので、ぜひ協力依頼をいただければと思う。

○カーニー 晴希（教育学類）

今回の値上げの件だが、毎日新聞の記事で既に情報が共有されており、定例記者会見の中で永田恭介筑波大学学長が「物価高騰で年間数千万円の赤字が出ており、経営が成り立たない。学生に相談するわけにもいかなかった」と述べている。

昨年度全代会が行った学長との懇談会において、学費の値上げについて学生に負担を強いるような施策が取られるような場合は、今後事前に情報を適切に共有することなどが要請され、今後のアクションに関連する情報について学生に共有および説明することの認識が共有されたはずであった。それにもかかわらず、今回値上げ実施の 4 ヶ月前という時期の周知になってしまったことは、教育学類の学生を代表して非常に残念であると表明する。

その上で、今後議論の場では、宿舍の値上げのみならず、他の重要な学生生活に関わるような事柄があると思う。例えば食堂、図書館等に関わる問題があると思うが、そういったことについてもぜひ今後適切に話し合いの場を設けられるように建設的な議論をしていただきたいと思う。

## ○吉川 柊（議長）

この質問については、私の方から回答させていただく。2025 年 12 月 26 日の時点で、議長名義により千葉親文副学長（学生担当）に対して、今回の宿舎の事例に限らず学生生活に重大な影響を及ぼす事項に関しては事前に意見交換する場を設けることや、情報共有を早くから行うことについて要望を提出し、副学長から 1 月 6 日の会議で同意する旨の回答をいただいている。今後大きな事態が生じた場合には、全代会と副学長、関係する学生生活課等の職員と事前に対話する場を設けて話し合いを進めていくということで合意があった。

## ○篠崎 健太（日本語・日本文化学類）

資料 01 及び 02 に、値上げを令和 9 年 4 月 1 日に延期するという要請項目がある。延長期間を 1 年間にするに至った根拠や背景を説明できるか。

## ○中村 文哉（生活環境委員会委員長）

1 年間とした経緯は、アンケートで猶予期間として 1 年間を求める回答が一番多かったため、1 年間の延期としてまず検討した。

## ○篠崎 健太（日本語・日本文化学類）

アンケートの回答を踏まえ、1 年が適切ではないかという声が多かったということか。

## ○中村 文哉（生活環境委員会委員長）

その通りだ。学生的心声を反映しているという認識である。

## ○関 智亮（知識情報・図書館学類）

これまでも全代会が様々な交渉をしてきた。今回の宿舎に関しては全ての全代会構成員が関係するわけではなく、一般学生の入居者が一番影響を受ける。その状況でこれまで出てきた副学長や大学職員の意見や考え方を一般学生に広めていく必要がある。全代会と学生生活課で交渉した内容を一般学生や SNS 等で公開するにあたり、例えば基本的には公開しない予定という考え方なのか、それともできる限り公開していくという考え方なのか。教職員の方々、全代会それぞれどのような方向で公開していきたいと考えているかお聞きしたい。

## ○中村 文哉（生活環境委員会委員長）

大学側が想定している情報公開の範囲と、全代会が公開したいと考えている範囲の差がどのようなものかという質問でよろしいか。情報の種類によってもまた異なるので具体的な回答は難しいが、交渉しながら進めようというのが全代会の方針である。

## ○関 智亮（知識情報・図書館学類）

全代会として基本的な公開範囲はどう考えているか。

## ○中村 文哉（生活環境委員会委員長）

学生に届くような範囲で公開をしたい。

## ○桑原 侑（生活環境委員会）

私も1月6日に委員長らが副学長と会議した場に臨席していたので補足したい。先ほど中期目標について回答があったが、誤解があると思われるので修正したい。筑波大学の中期計画評価指標の11番で、学生宿舍の新入生の入居率は令和9年（2027年）度末までに80%にする目標がある。それを達成するためにも宿舍の修繕や質向上のための値上げが必要という認識であったと私は把握した。

もう1つ、値上げによって赤字を埋めることに関する質問があったかと思うが、学生部の宿舍担当職員が計算し、中期計画で入居率80%という目標に対し、この程度値段を上げれば入居率80%で赤字を回避できる試算だという発言が2026年1月6日の会議であったので、その旨を正確に共有するために補足させていただいた。

## ○廣田 千恵（芸術専門学群）

先ほどの補足と重複する部分があるが、筑波大学が教育に関する中期計画として、体験入居・ショートステイを含む学生宿舍への新入生の入居率を令和9年度までに80%にすると書かれている。しかし、学生が宿舍入居を検討する際に最も重要な条件にしているのは値段だと思う。今回の寄送料・共益費の値上げは維持管理が目的ということで、学生の住環境向上のために値上げをするわけでもないということなので、現在の状況で新たに宿舍に入居する学生が増えるとは考えにくいのではないか。こうした学生、大学の姿勢が中期目標と矛盾するのではないかと考えられる状況に対してどのように考えているか。

## ○中村 文哉（生活環境委員会委員長）

まず、大学側の方針として低廉で簡素な宿舍から脱するというものがある。そのためにまず宿舍の値上げを行って、サービスの質を向上し、未来社会デザイン棟を使って様々な交流を生み出すことによって、値段以上の価値を生み出すというのが、大学が考えている宿舍のあり方であると認識している。

## ○橋本 奈央（比較文化学類）

現在、生活環境委員会の中で宿舍コミュニティを作ろうという案が出ている。実際に来年4月に宿舍に入居する新入生向けにイベントを行い、そこで宿舍のコミュニティを作っ



たり、定期的にイベントを行い、そこで宿舎の居住者同士で関係構築を図ったりして、今はあまりないコミュニティを作っていくという予定で動いている。そこでこれから宿舎がリニューアルされるにあたって、今回の値上げのような宿舎関連の動きが学生に大きな影響を与えることが予想される。その場合に、これから作る予定の宿舎コミュニティが、ある種の学生組織として合意形成の中心になるのか、それとも宿舎コミュニティはあくまで交流目的のもので、このようなケースは全代会が中心になるのか。今後どのような方向性で宿舎コミュニティが動いていくのかについて伺いたい。

○中村 文哉（生活環境委員会委員長）

まず生活環境委員会の委員長として、宿舎コミュニティ関連の動きについてはおおよそ理解している。しかし宿舎コミュニティの内容自体はほとんど決まっていない状況なので、どのような方針を持って活動していくかということはお答えしづらい。宿舎の学生が何をするかということは全代会が決めることではないので、宿舎コミュニティのあり方というのは宿舎に入居する学生が作っていくものではないかと考えている。

○綱木 映法（社会学類）

私からは2点質問する。

まず1点目だが、今回の値上げはあくまでも現状の宿舎の赤字などの状況を改善するためのものだと思う。現状の宿舎でも赤字が出る状況だということは、寄宿料が高くなって設備等の宿舎の質は変わらないだろうと推察する。その場合、居住者は減ると思うので、赤字を回収するために値上げをしたはずが、居住者が減ってしまい、収入も減るから赤字が回収できないという状況が容易に想像できる。大学としては住む人を減らして、限られた人が高い費用を払うことと、稼働する範囲を最小限にすることで、採算を取るようにシフトしようとしているのだろうか。もしご存知であれば伺いたい。

○中村 文哉（生活環境委員会委員長）

そういうことではないとは思われる。宿舎の部屋は全体で3517室あるが、そのうち80%に入居者がいなければ採算が取れないという状況である。もちろん値上げに関しては、わからないことがあるので詳細なことについては言及を控えるが、やはり赤字が回収できるのかという点については今後の話し合いを通して確認していこうと思っている。

○綱木 映法（社会学類）

2点目だが、アンケートを見ているとやはり宿舎に入居する理由の多くはお金だということを感じる。寄宿料の値上げはやむを得ないと思うが、それに関して先ほど宿舎入居者のコミュニティを作るという話があったと思う。しかしながら、宿舎に入居している人がそのようなコミュニティを本当に求めているのかという疑問がある。コミュニティについ

てはサークルや友人で補完されるので、宿舎をコミュニティ形成の場としてというよりは安く生活できる場として考えている人が多いのではないかと。そうすると入居者のコミュニティを作ることが直ちにその値段に見合うようなインセンティブにはならないのではないかと懸念しているが、その点についてはどのようにお考えか。

○中村 文哉（生活環境委員会委員長）

私もその点について同様の懸念を持っている。生活環境委員会ではこれまで宿舎に関するアンケートを様々行ってきたが、寄宿料の安さというのはやはり重要な観点となって、多くの学生が宿舎に住んでいる。そのため、今回の値上げを受けて宿舎に住みたいと思う人が増えるのかは疑問である。おそらく宿舎を改善することによって、安さではなくそのコミュニティを求める人に入居してもらいたいというのが大学の方針ではないか。

○綱木 映法（社会学類）

宿舎には安さではなく宿舎コミュニティなどの学生との交流を求める人に入っていて入居率 80%を目指していくということか。

○中村 文哉（生活環境委員会委員長）

その認識ではないかと思う。

○柿沼 陽菜美（生物学類）

学生生活課から 12 月 23 日に受領した回答において、宿舎の値上げが最終決定事項であり、見直しの可能性はないというものがある。それを踏まえた上で値上げの延期という要請があるが、これは実現されない可能性があると考えます。その場合はこちらの要請を提出する意義は何か。

○中村 文哉（生活環境委員会委員長）

まず全代会を通して要望を提出する意義についてだが、本会議の議決というのは、学長決定等に基づいて全学生の総意として出されるものである。要するに本会議で承認された場合、今回の場合だと全学を代表して値上げの延期を要請することになる。要望を出してもなお値上げが行われた場合、学生との合意形成が不十分なままで値上げが行われたという記録が残る。学生が正式な手続きをもって要請したにも関わらず値上げを行った、という記録が残ることが抗議理由になるなど、今後の活動の基盤になると思う。

○関 智亮（知識情報・図書館学類）

今回の値上げに関して全代会から要望があるのに加えて、SNS 上の筑波大学生のコミュニティでは法を根拠に宿舎の値上げについて対応を求めるような動きが見受けられる。そ

のような方々は借地借家法をもとに宿舍の値上げに対して問題があるのではないかと考えているようである。その点について大学側としてはどのような法的、規則的根拠から値上げが適切だと認識しているのか聞きたい。

○中村 文哉（生活環境委員会委員長）

値上げの法的根拠としては、借地借家法ではなくて、特別法である国立大学法人法に基づいて、宿舍は国の財産を以て建設されたものであるため国有財産であり、決定プロセスはその大学法人法に基づいて大学のみで行われるというふうな認識であった。大学と学生との合意は必要なく、大学のみ決定によって寄宿料を変更できるというのが大学側の考えている法的根拠であった。

○黒田 大翔（数学類）

いくつか質問がある。まず1つ、先ほどの質問で言及されていた毎日新聞の記事内に、値上げしても入居率80%は達成できるという学長の発言があった。その根拠はどこにあったのか。要は値上げ後の黒字化が保証されているのかというのが1つ目の質問である。もう1つ、全く違う質問だが、本議案が承認されて学生の総意として提出されたとして、その実現可能性はどれほどなのか。それが2つ目の質問である。

○中村 文哉（生活環境委員会委員長）

1点目について、学長の発言内容が実現する保証については、正直私もわからない。だが、大学の見解としては、未来社会デザイン棟や値上げによるサービス向上で還元することによって、コミュニティ形成の価値を生み出し、低廉で簡素な宿舍ではなく、学生同士のコミュニティを基にしたブランド力によってその目標を達成するというのが方針であった。

この要望を受けて大学側が動いてくれる保証がどれほどあるのかということだが、これに関しては私も保障は全くできないが、やはり全学の学生の声を持って意見をすることが重要なのではないかと考えている。

○黒田 大翔（数学類）

続けて質問する。大学側は値上げすれば宿舍入居率80%を達成できると考えているが、学生側は値上げしないでほしいと要求しており、意見が対立している。

大学側に対して交渉できるものは持っているのか。

○中村 文哉（生活環境委員会委員長）

交渉できるものというのは、具体的に何か。

## ○黒田 大翔（数学類）

たとえば値上げ以外で宿舎に入らない理由を改善できれば入居率 80%を達成できるのではないか。宿舎に入らない理由を調査しデータとして示すのも手ではないか。

## ○中村 文哉（生活環境委員会委員長）

そのようなデータは今までも提出してはいた。これから 4 ヶ月の間にそうした調査をするのは難しいことであり、そのために延期を要求しようと思っている。4 ヶ月の間にできることといえば、学生を集めて延期を要求した上で意見交流の機会と合意形成を求める程度だと思う。

## ○戸津 煌（人文学類）

先ほどの質問に関連してだが、大学は値上げ、学生はその阻止を希望しており、批判しているだけでは当然進展がないので交渉の余地を残すことが重要だ。資料 07 では 2007 年の値上げの際に、継続入居者には現行の金額を適用したという経過が掲載されている。新入生は値上げ後の費用を理解したうえで入居の判断ができるので、急に費用変更を告げられた現行の宿舎入居者のみへの対応を妥協案として全代会から提示するべきではないか。

## ○中村 文哉（生活環境委員会委員長）

全代会としてもその事例を踏まえて交渉しているが、まず学生が値上げに対してネガティブな意見を持っていることを示さないといけない。その証拠としてこの議決が必要だ。今回の議案が承認されればそれを踏まえて交渉していく。

## ○戸津 煌（人文学類代理）

回答ありがとう。本当にその通りだと思う。一旦大学を交渉の場に立たせた上で、今の寄宿料の据え置き、継続入居の学生への寄宿料据え置きなどを今後検討していただけるといいかなと思う。

**採決**

## ○吉川 栞（議長）

19 時 42 分になったので採決を行う。

採決の流れについては省略

出席者が 50 名、賛成 45、反対 1、保留 2 により、本議案は承認された。

議題は以上である。

○綱木 映法（総務委員会委員長）

今回の本会議の内容や資料については、現時点では全代会構成員以外への公開等も含めて口外はお控えいただきたい。メモを取られた方も、それはご自身の中で留めるようお願いする。理由としては情報が錯綜あるいは齟齬が生まれることを懸念しているためである。ご理解いただきたい。しかし、本会議は議事録を作成しており、遅くとも今週中には全代会のホームページにて公開されるので、そちらが公式の情報になる。今回取り扱った資料についても公開できる範囲でホームページに掲載されるため、それを活用して発信していただく分には特段問題ない。本日配布した資料については議長より説明があったと思うが、回収するのでその場に残していただくようお願いする。

委員会報告

○綱木 映法（総務委員会）

総務委員会では本会議議事録の作成および公開に向けて鋭意取り組んでいる。また年度末が近づいてきたので大掃除を行う予定である。また各委員長を通じて募集をかけようと思うが、積極的にご参加いただきたい。全代会の部屋や備品を綺麗にしていきたいと思うので、協力をお願いする。

○原田 晃（総務委員会情報部門）

特になし。

○柿沼 陽菜美（学内行事委員会委員会）

学内行事委員会委員長の柿沼である。学内行事委員会は雙峰祭の決算と総括の校閲に取り組んでいる。またそれに伴って来週に意見聴取会、再来週に本会議が予定されているので、そちらにも皆さん出席もしくは代理出席をお願いする。それ以外にも規則改正などに取り組んでいく。

○カーニー 晴希（教育環境委員会）

昨年中の委員会開催は12月17日が最後だった。そこからあまり動きはない。今後も何かあれば言ってほしい。

○中村 文哉（生活環境委員会）

今日は長時間本会議に参加していただきありがとうございます。承認されたということで今後も頑張っていこうと思う。

○趙 溢鈞（調査委員会委員長代理）

調査委員会は月曜日ついに調査委員会の独自の活動を決めた。よくある質問のリストを掲載したウェブページを作り、全代会ホームページ上に公開する予定である。これからも毎週ミーティングがある。

○吉川 栞（広報委員会委員長代理）

広報委員会は今、Campus の作成を行っている。

○趙 溢鈞（国際特別委員会）

これから毎週ミーティングを行う予定だ。

○松本 明香里（新入生歓迎特別委員会）

年が明けたということはいよいよ新歓も始まってくる。学類等の新歓組織に所属されている方、もしくは知り合いがいる方は、新歓ネット Teams をよく確認するようにお伝えいただきたい。また、後ほど新歓ネット Teams の方でも告知するが、第 2 回新歓ネット説明会を 1 月 20 日の 18 時 30 分から予定している。新入生歓迎特別委員会の委員および学類等の新歓組織に所属されている方は出席いただくようお願いする。

○原田 晃（情報処理推進特別委員会委員長代理）

新歓 Web について Web ページ学生委員会と新入生歓迎委員会のミーティングに同席する予定である。新情 Web についても進めていく。KdB のリニューアルが終了したことに伴い BRIDGE にもその情報を反映させていきたいと思う。

○趙 溢鈞（全代会新歓）

今年度も全代会新歓の時期が近づいている。積極的な参加を期待している。

○吉川 栞（議長）

今月は本会議と意見聴取会が合わせて 3 回ある。来週は意見聴取会、再来週は第九回本会議だ。学園祭に関する議案が出るので、本会議、意見聴取会の出席のほどお願いする。

募集を少し前にしたが、GSLS というものが今週の日曜日にある。学生交流課の人たちには、全代会の人は 10 人程度参加して欲しいと言われているが、まだ私の他に 3 名程度しかいないので、ぜひ時間のある方は連絡していただきたい。内容はマレーシアの人たちと意見交換しようというものである。

散会

以上 総務委員会 作成